

# 平成28年度 鳥栖市立麓小学校 学校評価結果

## 達成度

- A: ほぼ達成できた
- B: 概ね達成できた
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
鳥栖西中校区の教育目標 「小中9年間を通して豊かな人間性と自立心を培い、生きる力を持った児童生徒を育成する」 学校教育目標 「ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしく・たくましく生きる麓っ子の育成」	◎子どもの「学び」を鍛える・学力向上 ・国語科と「教科日本語」で確かな言語力と豊かな日本語の獲得。 ・電子黒板とデジタル教科書の効果的な活用。 ◎子どもの「心」を鍛える ・鳥栖西スタイル「三訓」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導を行う。 ○子どもの「体」を鍛える

## 3 目標・評価

### ①子どもの「学び」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	学力向上	学習規律の定着ができたか	・「学習のめあて」の内容を検討し、学習への取組への指針とする。 ・「チャイム着席」「はいの返事」などを90%超にし、習慣化する。	・「休み時間に次時の準備する」「話を聞く」「家庭学習を確実にやる」を3本柱として指導していく。 ・「麓っ子ががんばり週間」を設定し、「ふもとっかがんばり表」で自分の学びを振り返らせる。	B	・鳥栖西中校区の重点目標に沿って指導し、3本柱について、ほぼ定着することができた。 ・「麓っ子ががんばり週間」に自己評価をし、振り返りをさせることで、指導に生かすことができた。「チャイム着席」「はいの返事」については、まだ90%に達していない。	・「学習のめあて」を活用し、さらに定着を目指す。 ・「麓っ子ががんばり週間」を引き続き設定し、さらに意識を高め習慣化を図る。
教育活動		基礎・基本の定着ができたか	・スキルタイムの充実を図る。 ・家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着を図る。 ・学力向上を意識した学習を仕組む。 ・読書量1人平均年間80冊以上を目指す。	・ことばスキル、計算チャレンジ、すくすくテストを通して既習内容の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを全校児童に配布し、保護者に協力を呼びかける。 ・本時のめあて、まとめを意識した授業を行う。ことばや式を使って自分の考えを表現させる。	A	・ことばスキル、計算チャレンジ、すくすくテストを通して既習内容の定着を図ることができた。 ・家庭学習の手引きを全校児童に配布し、保護者に協力を呼びかけた。 ・本時のめあて、まとめを意識した授業を行った。ことばや式を使って自分の考えを表現させるようにしたので、表現力もついてきている。 ・読書量一人平均96冊以上を達成した。	・学習内容の確実な定着を目指し、基礎・基本を繰り返し指導していく。 ・各学年の「読んでおきたい20冊」を、教科書の改定内容に合わせて見直しをする。
教育活動	ICT利活用教育の推進	教員のICT利活用能力は向上したか	・ICTを活用した授業に取り組む。 ・電子黒板の機能について研修し、授業に生かせるようにする。	・全教員がデジタル教科書やデジタルビデオカメラを活用した授業に取り組む。 ・校内研修会を夏季休業中に実施する。 ・電子黒板導入後、授業導入や考えの練り合い等で積極的に取り組む。	A	・全教員が電子黒板をはじめICT機器を活用した授業に取り組むことができた。 ・電子黒板やICT機器を有効に使った授業技術を向上させるために校内研修会を夏季休業中に行った。	・授業の流れの柱を考え、電子黒板を有効に使って、授業途中に全体での練り合いなどの質を上げる指導力をつけることが課題である。

### ②子どもの「心」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	いじめ問題への対応	心の教育 ・道徳の時間の充実ができたか	・「いじめ・命の日」の取り組みとして、人権週間に全学年生命尊重の授業を行う。 ・年間に1回以上、全ての学級で保護者や地域の方が参観することが可能な「ふれあい道徳」の授業を行う。	・「私たちの道徳」を活用できるよう、道徳、人権・同和の年間計画を作成を見直し、児童の実態に応じた指導をする。	B	・人権週間には、人権についての話を全校児童にすることで、意識を高めることができた。また、人権標語に取り組むことにより、友達に優しく思いやりを持って接することの大切さを考えさせた。 ・全ての学級で、保護者や地域の方々から参観できる道徳の授業を行うことができた。その結果、学校で指導したことを保護者に理解してもらうことができた。 ・人権同和实践集の活用があまりできなかった。	・人権同和实践集の中での取り組みを紹介したり、資料を作って活用したり、実践しやすい状況を作る。
教育活動		いじめ問題への対応 ・いじめと命を考える日の取り組みの充実ができたか	・いじめをはじめ問題行動の早期発見、初期対応に努める。 ・毎月10日に、心のアンケートを実施して、児童が安心して学校生活を送れるようにする。	・いじめ防止対策委員会を年2回開催する。 ・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ち把握を把握し、すぐに対応する。 ・得た情報をすぐに対応し、全クラスがアンケート用紙を職員室に保管して、児童の変容をつかむ。	B	・毎月10日を基本に、児童対象に「ここにアンケート」を実施し、毎月欠かさず、いじめや問題行動の早期発見、初期対応に努めることができた。 ・実施したアンケートをもとに、一人一人の児童の状況や気持ち把握し、気になる記述があればすぐに対応して、問題や不安の解消に努めるようにした。実施したアンケートは、全クラスが全児童分保管して、児童の変容をつかむことに役立てた。	・いじめ防止対策委員会の開催を計画していたが、いじめや問題行動については、関係学年を中心にその都度会をもち対応した。また、毎週連絡会の場でいじめや問題行動の事業を報告し合い、全職員の共通理解を図った。今後は、連絡会を中心に、生徒指導協議会やケース会議などをうまく連携させ、計画的にいじめや問題行動の早期発見・初期対応に努めていくようにする。

③子どもの「体」を鍛える。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動		・よりよい生活習慣の定着ができたか。	・給食後の歯磨き実施率を100%にする。 ・目標就寝時刻を守る子どもを70%以上にする。 ・毎月1日の「ノーテレビデー、ノーゲームデー」の取組率80%以上にする。	・「ふもとっ子がんばり表」を活用し継続的な指導を行う。 ・学期ごとにノーテレビデー、ノーゲームデーを実施する。 ・家庭での取組をまちcomiで知らせ、各家庭への啓発を強化する。	B	・給食後の歯磨きについては担任の指導や、チェック表の活用などによって概ね実施できていた。 ・就寝時刻については目標を達成できた。 ・ノーテレビデー・ノーゲームデーの実施率については目標を達成できた。	・引き続きがんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・保健や学活の授業を計画的に行い、歯磨きや睡眠の重要性を指導する。 ・ノーテレビデー・ノーゲームデーについてのアンケートの回収率が下がりがつあるのので、新たな方法を考えるべきである。
教育活動	健康・体づくり	・体力の向上ができたか。	・天気の良い日は95%以上の子どもが1日1回は休み時間、外で遊ぶようにする。 ・スマイルタイムの実施を毎月1回以上とする。	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)1日1回外遊びの声かけをしたりする。 ・スマイルタイムを通して、運動の楽しさを味わわせたり、遊びの幅を広げたりする。 ・各種お便りによる保護者・地域への啓発を行う。(学校だより、給食・食育だより、保健だより、学級通信など)	B	・学級で遊ぶ日を設定し実施することはできたが、毎日の声かけは効果を上げないことも多かった。 ・スマイルタイムを実施することで、様々な遊びに取り組むことができ、児童の遊びの幅が広がったが、月1回以上の実施はできなかった。 ・各種お便りによる啓発は徐々に効果を現しつつある。	・体育の授業で行った活動が、休み時間にも行えるよう、指導内容や実施方法を工夫する。 ・新体力テストの結果を児童に確認させ、体力向上のために外遊びが重要であることを認識させる。 ・学級全員で外遊びをする日を設定する。 ・月1回以上のスマイルタイムの実施を目指す。 ・引き続き各種お便りによる啓発を行う。

④教師力を磨く。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・ミドルリーダーの育成ができたか。	・お互いの資質向上のため、1年間に1回以上師範授業や校務分掌等に係る講話等に取り組む職員を100%にする。	・初任者対象の師範授業を計画的に行う。 ・研究授業を学期に1回以上実施し、授業研究会を行うことで授業力アップにつなげる。	A	・全担任と級外の教職員が1回以上の研究授業と研究会を開き、研鑽を積むことができた。 ・初任者対象の師範授業を計画的に行った。また、初任者も初任研授業に熱心に取り組んだ。	・これから若い教職員が増えてきているので、教科指導技術力を付けるため、授業を見てもらったり、ベテランの授業を参観したりする機会を増やす。生徒指導や保護者対応力も大事な教師力なので、学年主任や指導教諭との研修の時間も設けていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	小学校低学年の学習環境改善充実	・基本的な生活習慣・学習習慣の育成ができたか。	・授業の始まりを守ることを達成率90%以上にする。 ・元気良いあいさつや返事をすることの達成率85%以上にする。 ・家庭学習を毎日する。達成率90%以上にする。	・休み時間に次の授業の準備をさせる。 ・定期的に自己評価をさせる。 ・話を聞く時の約束を意識させる。 ・学習習慣を身につけさせるために毎日の宿題を出す。 ・学級通信や懇談会を通じて、家庭との連携を図る。	B	・家庭での学習習慣や生活習慣について、籠っ子がんばり週間を設けて、定期的に取り組んできた結果、徐々に保護者の協力もることができて、身につけてきている。	・あいさつ指導においては、毎朝幟をたて、あいさつ日本一という目標に取り組んできた。地域も方や保護者からあいさつがよくなってきたと評価を得た。目標をしっかりと立て、継続した指導をこれからもしていく。
活教育	○小中一貫教育の推進	小中学校職員の相互理解ができたか	・研究企画委員会・拡大協議会を月一回以上実施する。 ・3校合同研究会を年2回以上行う。	・4月当初に、年間計画を立て、会議や打ち合わせを入れておく。 ・拡大協議会での決定内容については副部長会長を中心にして各学校で実践していく。 ・8月4日三校合同教職員研修会、11月三校合同授業参観による研修会を実施する。	B	・4月に3校で年間計画を立て、8月に3校合同教職員研修会、11月に3校合同授業参観など研修会を開き、9年間を見据えた小中一貫教育の取り組み内容の理解と実践ができた。	・平成29年度・30年度と鳥栖西中校区で小中一貫教育の発表校となっている。これまで積み重ねてきた実績の上に、さらなる取り組む目標をしっかりとつかみ、指導のベクトルを同じにして取り組んでいく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組							
<p>○いじめ・命を考える日の取り組みに限らず、日常のつぶやきやいじめについて児童アンケートを実施して実態把握に努めたり、人権集会や全校集会での取り組みを充実させあたたかい心情を育てたりして、絶対いじめ事例が発生しないように全職員一丸で努めている。</p> <p>○小中一貫教育の研究については、学習指導方法、身の周りの生活指導等の共通理解し日々実践している。研究組織については、修正を行い来年度からの研究に向かう組織が完成した。それぞれの組織が担当を柱に回っていくように実践計画を練っている。</p> <p>○校内研究の国語科については、全校研をはじめ全教職で取り組んだ。昨年度の内容より授業指導内容の質が上がってきた。児童の読解力や話し合い活動の向上が見られた。これからも指導のポイントととらえ継続していく必要がある。</p>							